

# 米沢興讓館高校SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール

## 地域の子供たちへ科学の楽しさを伝える



米沢の理科教育に大きく係わる機関として、高等教育機関である山形大学工学部、初等・中等教育における理科教育を支援する米沢市理科研修センター等があげられる。本校はこれらの機関と相互に連携・協力し、米沢の理科教育の向上に努めている。平成28年9月30日に山形大学工学部で行われたグリーンイノベーション・ライフイノベーション実験講座（GILII実験講座）、本校理科教員及びCSS部の生徒が小学生や中学生など子ども向けの体験型科学実験教室の講師となり、子ども達に科学の楽しさや不思議さを伝えられるようになることを目標に行われた。平成28年10月9～10日に開催された生涯学習フェスティバルでのモバイルキッズケミラボブース及び平成28年10月30日に開催された地域の文化祭である南原文化祭で生徒が活躍している様子を紹介する。小さな子ども達の笑顔が印象深い。

「GILII実験講座に参加して」  
（2年理科男子）  
私達二年理科は十月二日に山形大学で行われたGILII実験講座に参加しました。普段は入ることのない研究室に入って実験をすることができました。私の参加した研究室は「ニギビ用化粧料の開発」をしていて、ここで、実際に化粧料を作りました。研究室には高校にある実験器具よりも多くの物があり、それらを使用しました。化粧料を作ってみて、化粧料はほとんど水でできていて、とても少量の薬品を入れる事で化粧料になり、科学は目に見えない大きさでも働く世界であると感じました。「このような体験ができたおかげで化学や実験の面白さを改めて感じることができ、また、大学での研究が楽しみになりました。これからもいろいろな体験をして、楽しみたいと思いました。」



右の写真は「人が入れるシャボン玉」興讓館の生徒の息が合わない、きれいに大きなものは作れない。全てのブースで子供達がひっきりなしに訪れ、《大盛況》であった。



「子供達との科学実験を通して」  
（1年生男子）  
今回、私はモバイルキッズケミラボにスタッフとして参加しました。当日は先輩方が考えた「磁石に付くスライム」のコーナーでスタッフとしてさせていただきました。最初は、うまく子供達と実験を楽しめるか不安でいっぱいでした。もとより私は人と目を合わせて話すという事が苦手で、一回目に来てくれた子供に対してはただ実験をやり返すことに精一杯で、子供に楽しんでもらうということに意識がとどいてなかったと思います。「ここから私は、ケミラボは子供向けなので、実験の成功や安全性はもろもろのこと、なにより科学実験を楽しむかつ、分かりやすく伝える事の難しさを痛感しました。」  
私はこの経験からまた子供向けに教える機会があれば、活動に主体的に取り組み、前もつてどのように伝えたら分かってもらえて楽しんでもらえるかを考え、それから望みたいと思います。「このように人に科学の魅力を伝えられるように精一杯がんばっていききたいと思います。」



「南原文化祭に参加して」  
（1年生男子）  
私は南原文化祭に二年生理理科の先輩方と一緒に「スライムづくり」というテーマのもとに参加しました。参加させていただいたことで、様々な方とそれぞれ違った関わりをすることで学んだ事がありました。  
まず、「スライムづくり」は分量が大切です。しかし、準備に時間をあまり使う事ができなかったこともあり、上手にスライムにならないことが多くありました。自分ではわかっていても、相手に伝えて理解してもらおう事の難しさを感じました。また、準備の大切さを改めて痛感しました。  
しかし、スライムが完成した時に見せる子供達の笑顔を見ると、「教えて良かったな」と思いました。そうやって教えれば教える程に「教える」ことの嬉しさとともに大きなやりがいを感じました。  
また、文化祭に参加している方々に温かい言葉をかけていただいていた心温まる思いで文化祭に参加できました。文化祭の成功に少しでも貢献できたと思うと大きな達成感がありました。また、このような地元の文化について触れる機会をなくさない為にも、私達が率先して参加していく事が大切だと思います。  
今回の文化祭では、科学好きや教育関係を目指す人が参加したわけですが、その域を超えて学ぶ事が多くあり、成長する事ができた一日だったと思います。文化祭を通して学んだことをこれからの人との関わりや進路に対して生かしていきたいです。

